

行財政改革推進委員会における主な意見

(第6回議事録及びその後頂いた御意見より抜粋)

総論

諮問 項目	検討 項目	意見の概要	発言者	会議
0	(0)	歳出カットの表現が全然出てこないことについてはどうなのか。	鈴木委員	第6回
0	(0)	また、市民からの立場から考えると歳出カット、人員削減、組織の統廃合の方針が出てくることは必要と考える。	鈴木委員	第6回
0	(0)	組織の統廃合、歳出のカット、歳入確保などを入れないと危機意識が伝わらないと思う。	鈴木委員	第6回
0	(0)	(歳出カット、人員削減、組織の統廃合の方針等) 委員が言われていることは、「限られた収入の中であって」という表現に含まれているのかと思う。そこをもう少しインパクトのある表現に代える理解で良いのか。	千原委員	第6回
0	(0)	答申は具体的なものを表記したものでなくていいのだけれど、集中改革プランを作るときの方向性を示さなければいけないと思う。 しかし、何を作っても答申に合ってくるような気がする。極端な言い方をすれば、これがなくてもプランが作れるように気がしてならない。この答申があったからプランができたという話につながるのか疑問に感じた。	中村委員	第6回
6	(1)	説明を聞いた中で、何も目新しいものがないと思う。 各委員の意見が入っているが、このようなことは、今まで市で行ってきたのではないかと感じる。例えば、極端なことを言えば、「モーターボート競走場の健全経営の実施」ということよりも、むしろ「廃止の方向も含めて検討」などの話が入らないのかと感じた。	中村委員	第6回
0	(0)	行財政改革に位置づけた各種取組みの実施により影響の出る関係書団体へは、十分な説明責任を果たすことが必要である。	宇野委員	文書

1 効率的な事務事業の在り方

諮問 項目	検討 項目	意見の概要	発言者	会議
1	(1)	<p>答申であるので具体的なものは無くても良いのではと考える。定員管理の在り方について、職員2,500人体制のことを考えると市組織の統廃合の部分も必要になってくると思えることから、組織の統廃合の考えを示してはどうか。</p>	宇野委員	第6回
1	(5)	<p>行政評価に係るシステムの構築に向けた検討 行政評価導入に伴う弊害として、例えば以下のようなことが言われております。</p> <p>①評価自体が目的化する ②事務負担の増大感 ③評価が人員削減、部署廃止に直接結びつくとの不安感</p> <p>そして、このことが結果として、評価の形骸化につながるとも言われております。</p> <p>そこで、この項では「行政評価システムを導入する際には、その導入目的を明確にすること」と言ったような言葉を入れてはどうでしょうか。</p> <p>なお、行政評価システムは「財政状況の悪化」、「現場主導の行財政改革の行き詰まり」あるいは「住民に対する説明責任」等からその導入が広がってきたものといえます。</p> <p>従って、最後のところにあります「評価の対象を市民にわかりやすい・・・簡素で・・・」とあるのは行政評価システムの導入目的と意図するところが、やや異なるように思えますが・・・</p>	中村委員	文書

2 民間の活用の在り方

諮問 項目	検討 項目	意見の概要	発言者	会議
2	(2)	<p>公共施設の在り方に係る検討中ほどに、「このほか、・・・(中略)・・・建設に際しては、P F I等の民間活力・・・」云々の文章があります。</p> <p>この項が既存の公共施設に係る意見であるとするれば、ここにP F Iが入るのは少し唐突のように思えますが・・・。</p> <p>P F I方式は、この文章にも“建設に際しては”とありますように、公共事業投資に対する事業手法ですから、もし、P F Iの話を入れるとしたら、</p> <p>5. 健全な財政運営のあり方</p> <p>(3) 公共工事のコスト縮減に向けた検討の項の方が向いてるように思えますが・・・</p>	中村委員	文書
2	(3)	<p>外郭団体のあり方に係る検討、最後のセンテンスの「出資割合の少ない団体については、出資金としての視点からは価値が少ないことから・・・」のところは、以下のように直したほうがいいのではと思います。</p> <p>少ない →低い 出資金としての視点からは価値が少ない →出資者としての意義が少ない</p>	中村委員	文書

3 定員管理の在り方

諮問 項目	検討 項目	意見の概要	発言者	会議
3	(1)	(定員管理のところだけ数字が出ているがどうするか。) 数字は外した方が良くと思う。	鈴木委員	第6回
3	(3)	人材育成の「方法」等についても少し具体的な意見は必要ないでしょうか……。例えば、若手リーダーの民間会社への出向とか……	中村委員	文書

4 健全な財政運営の在り方

諮問 項目	検討 項目	意見の概要	発言者	会議
4	(1)	総務省から指示されている経常収支比率や起債制限比率などの枠組みについて、表現はどうするのか。	鈴木委員	第6回
4	(4)	前段の文章からすると、「枠配分方式」が予算編成のすべてに掛かるように見えます。 「枠配分方式」は、経常的経費の予算編成手法であると理解していますが……。もしこの理解でいくならば、その旨を明確に示したほうが良いと思います。 一般的には、予算編成といえば、政策的経費も含んでいると解されます。	中村委員	文書

5 電子自治体に向けた行政運営の在り方

諮問 項目	検討 項目	意見の概要	発言者	会議
5	(1)	<p>「実際にサービスを利用する市民の情報リテラシーの状況を踏まえつつ、IT化の段階的な推進とそれを補完する現状のアナログ方式の両方の長所を活かしたシステムの構築が必要である。」の個所を以下のように修文</p> <p>「実際に行政サービスを利用する市民の情報リテラシーの状況や住民基本台帳カードの普及状況などを踏まえつつ、現行の窓口業務などの方式も継続しながらシステムの構築が必要である。」</p>	山口委員	文書
5	(2)	<p>「電子自治体の構築は、庁舎内部の方は効率化には有効なことから、」の個所を以下のように修文</p> <p>「単に業務の電算化を行うということではなく、業務とシステムの両方の観点から庁舎内部の事務効率化のための電子自治体の構築を目指し、」</p>	山口委員	文書
5	(2)	<p>「特に、情報システムの規格を標準化によるコスト削減に向けては、外部の専門家も活用に合わせて全庁的な推進体制の取り組みが必要である。」の個所を以下のように修文</p> <p>「特に、情報システムの標準化や共通化によるコスト削減を図り、外部の専門家の支援を受けるなどして全庁的な情報システムの最適化の推進に取り組む必要がある。」</p>	山口委員	文書

6 その他本市の行財政改革の推進に関する重要事項

諮問 項目	検討 項目	意見の概要	発言者	会議
6	(1)	<p>モーターボート競走事業の健全運営</p> <p>3. 民間の活用の在り方 (2) 公共施設の在り方に係る検討の項に所謂、公の施設につき、廃止あるいは統廃合をも視野に入れた提言を行っています。にも係らず、モーターボート事業だけがこの項で存続を前提とした意見になっていることは、答申書全体の整合性からみて少し違和感があります。</p> <p>もし、存続、廃止あるいは統合は行政庁の専決事項であつて、答申書では具体的に言及できないならば、公の施設の項に書かれた表現と共通するように記載した方が市民に納得されるのではないかと思料します。</p>	中村委員	文書
6	(2)	<p>かつて私立の短大では、音楽科が設置されていたのが、何年か前にそれは廃学となってしまった。</p> <p>少子化といえども芸術科大学を進学勉強を目指している学生は多いと思われる。</p> <p>また芸術進学塾、予備校はあっても大学としては三重大学だけであり、少しでも県外に流れない様、三重短期大学にスポーツ科や芸術学部（音楽、美術など）増設を考えていただきたいと考える。</p>	中井委員	文書
6	(2)	<p>三重短期大学の活性化</p> <p>同大学は公の施設です。なぜ、ここに別枠で記載されているのか、その理由を明確にしておく責任はあると思います。</p> <p>(公の施設である限り、その運営は民間に委託する手法も存在するわけですから・・・)</p>	中村委員	文書